

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	VITEK MS 抗酸菌/カジ7用前処理キット	—	R1 試薬
製品番号	415659		
製造元			
会社名	bioMérieux sa		
住所	Chemin de l'Orme - 69280 Marcy-l'Etoile – France		
電話番号	+33(0)478877656		
FAX 番号	+(1) 919 470 6819		
Email	gcs_idast@biomerieux.com		
会社名 (販売元)	バイオメリュー・ジャパン株式会社		
住所	〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-7 赤坂溜池タワー2F		
担当部門	薬事部		
電話番号	03-6834-2666		
緊急時の電話番号	03-6834-2718		
FAX 番号	03-6834-2667		
Website	http://www.biomerieux.co.jp/		
推奨用途及び使用上の制限	試薬		

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的・化学的危険性	引火性液体 区分2
健康に対する有害性	健康に対する有害性は、分類できない。しかし、混合物等の職業性ばく露は健康への影響を引き起こす可能性がある。
環境に対する有害性	環境への危険有害性は、分類できない。
特別な有害性	データなし
主な症状	直接眼接触した場合、一時的な刺激を引き起こす可能性がある。
GHS ラベル要素	

シンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H225 : 引火性の高い液体及び蒸気
注意書き	
安全対策	P210 : 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。— 禁煙。
応急措置	P280 : 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 データなし

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法	安衛法	
エタノール	70 - < 80	C ₂ H ₅ OH	(2)-202		64-17-5

分類に寄与する不純物及び安定化添加物	情報なし
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（施行令第18条、別表第9の61）（70 - < 80 %） 危険物：引火性の物
	エタノール エタノール（政令番号：4）

4. 応急措置

吸入した場合	呼吸が難しいようなら被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 呼吸困難時には必要に応じて酸素吸入をさせること。 被害者がこの物質を吸入した場合、（人工呼吸法等の）口移し方法は行わないこと。 症状が続く場合なら、医師の診断を受けること。
皮膚に付着した場合	石鹼と水で洗い流すこと。 接触を最小限にする為、接触していない部分に拡大しないようにすること。 皮膚刺激が続く場合には、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	直ちに多量の水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 症状が続くようなら、医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合	多量に摂取した場合、直ちに中毒情報センターに連絡すること。 口をすすぐこと。 無意識（意識不明）の場合又は痙攣を起こしている場合には、被害者の口からは何も入れないこと。 中毒情報センターから指示なしに吐かせないこと。 嘔吐した場合、胃の内容物が肺に入らないように頭部を低くすること。 症状が現れた場合には、医師の手当、診断を受けること。
最も重要な症状及び影響（急性/遅延性）	眼に直接入ってしまった場合、一時的な眼刺激が現れる可能性がある。
発症時に注意すべき事項	症状により遅れて発症する可能性がある。
一般的な情報	気分がすぐれない場合は、医師の手当てを受けること（可能であれば本製品のラベル表示を見せること）。 担当医に本製品のSDSを見せること。

5. 火災時の措置

消火剤	耐アルコール性泡消火剤。 水噴霧。霧水。 二酸化炭素（CO ₂ ）。 粉末消火剤。
使ってはならない消火剤	勢いのある水噴霧、棒状注水は被害を増大する。
特有の危険有害性	蒸気は空気と爆発性混合物を形成するおそれがある。 発火源へ到達した蒸気はフラッシュバックのおそれがある。
消火を行う者の保護及び注意事項	特になし
消火方法及び指示	火災及び/又は爆発の場合、煙を吸入しないこと。
具体的な消火方法	標準の消火方法を用いる。その他含有される原料の有害性も考慮すること。
一般的火災の危険性	引火性液体及び蒸気。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

不要な作業員を遠ざけること。関係者以外は近づけない。
直ちにエリア内すべての着火源を排除すること。－禁煙、フレア、火花、火炎。
後片付けの最中は、適切な保護具及び保護服を着用すること。
漏洩した物質には触れないこと（歩き回らないこと）。
立ち入る前に、閉鎖域を換気すること。
多量の流出が考えられる場合、地方自治体に連絡し指示を仰ぐこと。
適切な個人保護具については、8.「ばく露防止措置及び保護措置」の項を参照してください。

封じ込め及び浄化の方法・機材

直ちにエリア内すべての着火源を排除すること。－禁煙、フレア、火花、火炎。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
木、紙、油等の可燃性物質に流出物質を吸着し回収すること。
危険性がない場合、製品の流出を止めること。
製品はパーミキュライト、砂又は土などの不燃性物質に吸収させ廃棄可能な容器に回収すること。後で廃棄処理する。
排水溝、水路、地下室（下階）又は密閉された場所への侵入（流出）を防ぐこと。
製品回収した後、汚染域は水で洗い流すこと。
土、砂又は他の不燃性物質に吸着させ、廃棄可能な容器に移すこと。後で廃棄処理する。
吸収性素材（例：布、フリース）で拭き取ること。
汚染物質が残らないよう作業場所を清浄すること。
流出物は再利用目的で元の容器に戻さないこと。
廃棄物処理に関しては、「13. 廃棄上の注意」を参照すること。
環境中への放出を避けること。
排水溝、水路又は地表面への放出（排出）を避けること。

環境に対する注意事項

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	使用前に使用説明書を入手すること。 蒸気は空気と爆発性混合物を形成するおそれがある。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。また、このような場所でこの製品を保管しないこと。 直射日光に当たらないこと。 使用する際は喫煙しないこと。 一般的な防爆装置及び排気装置を設置すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 適切な個人用保護具を着用すること。
接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管

安全な保管条件	熱、火花、裸火から遠ざけて保管すること。 アース等を用いて、静電荷の蓄積を防いでください。 発火源を排除すること。
---------	---

しっかりと密閉容器に保管すること。
換気のよい場所に保管すること。
スプリンクラーを設置したエリア内で保管してください。
混触危険性物質から遠ざけて保管すること。(10.「安定性及び反応性」を参照)
『10. 安定性及び反応性』を参照。
消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

混触禁止物質
容器包装材料

8. ばく露防止及び保護措置

	CAS 番号	管理濃度	許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
			日本産業衛生学会	ACGIH
エタノール	64-17-5	未設定	未設定	TWA 1920 mg/m3 1000 ppm

生物学的ばく露指標

この成分に対する注意すべき生物学的ばく露指標はない。

設備対策

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
部分的な換気装置を設置すること。
一般的な換気装置を使用することがよい。換気速度 (効率) は一定であること。
洗眼器 (設備) を設置すること。
本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
眼との接触を避けること。
皮膚との接触を避けること。
必要に応じて、個人用保護具を着用すること。
個人用保護具等は使用者と相談し CEN 規格に従い選定すること。

保護具

眼/顔の保護具	眼に入らないようにすること。 サイドシールド (またはゴーグル) と安全眼鏡を着用すること。 噴水式眼洗浄を推奨する。
手の保護具	保護手袋を着用すること。 ニトリル製の保護手袋を使用すること。
皮膚及び身体の保護具	皮膚への接触を避けること。 必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。
呼吸器の保護具 熱危険性	個人用呼吸器保護具装着の必要はない。 データなし

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状态	液体
	形状	データなし
	色	無色透明もしくはほとんど無色
臭い		データなし
臭いのしきい (閾) 値		データなし
pH		データなし
融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲		-48°C (推定)
引火点		21.0°C (推定)
蒸発率		データなし
燃焼性 (固体、気体)		非該当

燃焼又は爆発範囲	可燃限界	
	下限	データなし
	上限	データなし
蒸気圧		79.06 hPa (推定)
蒸気密度 (空気=1)		データなし
相対密度		データなし
溶解度 (水)		データなし
(その他)		データなし
n-オクタノール/水分配係数		データなし
自然発火温度		データなし
熱分解温度		データなし
粘度		データなし
揮発性有機化合物		75% (推定)
VOC (W %)		

10. 安定性及び反応性

反応性

この製品は通常の使用、保管、輸送条件下では安定でかつ非反応性である。

化学的安定性

通常の取り扱い温度、圧力等の条件下では安定である。

危険有害反応の可能性

危険な重合反応は起こさない。

避けるべき条件

熱、高温の物体、火花、裸火、静電気火花等の着火源を避けること。

引火点を超える温度を避けること。

混触危険物質との接触。

混触危険物質

強酸化剤。

危険有害な分解生成物

危険な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

化合物	種別	試験結果
エタノール (CAS : 64-17-5)		
急性 (吸入) LC50	マウス	39 mg/L, 4 Hours
	ラット	20000 ppm, 10 Hours
(経口) LD50	イヌ	5.5 g/kg
	モルモット	5.6 g/kg
	マウス	3450 mg/kg
	ラット	6.2 g/kg

* 製品としての概算 (推測) は、追加成分データに基づく場合がある (図示化してない)。

皮膚腐食性/刺激性

データ不足の為、分類できない。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

データ不足の為、分類できない。

呼吸器感作性

データ不足の為、分類できない。

皮膚感作性

データ不足の為、分類できない。

生殖細胞変異原性

データ不足の為、分類できない。

発がん性

データ不足の為、分類できない。

生殖毒性

データ不足の為、分類できない。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

データ不足の為、分類できない。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

データ不足の為、分類できない。

吸引性呼吸器有害性

データ不足の為、分類できない。

その他情報

利用可能な情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性

この製品は環境的に有害であると分類されていない。しかし、高頻度の流出が環境に与える影響の可能性を排除（否定）しているものではない。

化合物	種別	試験結果
エタノール (CAS 64-17-5)		
水生		
甲殻類	EC50 オオミジンコ	7.7 – 11.2 mg/L、48 hours
魚類	LC50 ファットヘッドミノー	> 100 mg/L、96 hours

* 製品としての概算（推測）は、追加成分データに基づく場合がある（図示化してない）。

残留性及び分解性

この製品の分解性として提供できるデータはなし。

生物蓄積性

n-オクタノール/水分配係数 (log Kow)

エタノール

-0.31

土壤中の移動度

データなし

他の有害影響

この成分からの環境に対するその他の有害影響はなしと推測。

（例：オゾン層破壊の可能性、光化学的オゾン発生の可能性、内分泌かく乱の可能性または地球温暖化の可能性）

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄処理規制

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の規制基準に従うこと。

密閉できる容器に収集し、許可を受けた廃棄物処理業者に引き渡すこと。

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

下水及び河川等にこの製品を排出させないこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器にも製品の残留物が残っている為、容器が空になっても警告等の表示に従うこと。

残留物/未使用製品の廃棄

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の規制基準に従うこと。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。（空容器の場合でも、製品がわずかに残留している可能性がある為、原材料及びその容器も安全に処分する必要がある）

14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	I M Oの規定に従う。
	UN No.	UN1170
	Proper Shipping Name	ETHANOL (ETHYL ALCOHOL) or ETHANOL SOLUTION (ETHYL ALCOHOL SOLUTION)
	Transport hazards class(es)	
	Class	3
	Sub Risk	-
	Packing Group	II
	Environmental hazards	
	Marine Pollutant	No.
	航空規制情報	I C A O / I A T Aの規定に従う。
	UN No.	UN1170
	Proper Shipping Name	Ethanol
	Transport hazards class(es)	
	Class	3
	Sub Risk	-
	Packing Group	II
	Environmental hazards	No.
	ERG Code	3L
国内規制	陸上規制情報	消防法の規定に従う。
	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
	国連番号 UN No.	1170
	品名	エタノール又はその溶液 (アルコールの含有量が 24 容量%以下の水溶液を除く。)
	分類	引火性液体類
	クラス 等級	3
	副次危険性等級	-
	容器等級	II
	海洋汚染物質	海洋汚染防止法に従う。
	航空規制情報	航空法に従う。
	国連番号	1170
	品名	エタノール又はエタノール溶液
	分類、区分番号	3
	クラス	2、3
	副次危険性	-
特別の安全対策		輸送の前に容器の破損、腐食、モレ等がないことを確かめる。 危険物は当該危険物が転倒し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように載積すること。 移動の際に転倒、衝撃、摩擦、漏洩などを生じないようにする。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、モレ等を生じさせないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 運搬中の事故等により災害が発生した場合は、最寄りの消防機関その他の関係機関に通報すること。 輸送時にイエローカードを携帯すること。
緊急時応急措置指針番号		127

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9 の 61）（エタノール）
消防法	危険物（引火性の物）（施行令別表第 1 第 4 号）（エタノール） 危険物第 4 類引火性液体アルコール類水溶性液体（法第 2 条第 7 項危険物別表第 1）
船舶安全法	引火性液体類（危規則第 3 条危険物告示別表第 1）
航空法	引火性液体類（施行規則第 194 条危険物告示別表第 1）
港則法	引火性液体類（施行規則第 12 条危険物告示）
廃棄物処理法	特別管理産業廃棄物（法第 2 条第 5 項、施行令第 2 条の 4 第 1 号） （廃油）（引火点 70℃未満の消防法引火性液体）

16. その他の情報

参考文献	R11:高い引火性 H225：高い引火性液体及び蒸気 H411：水生環境有害性、長期間（慢性） NITE GHS 分類公表データ EU CLP Regulation, Annex VI CHEMWATCH 社 GHS-(M)SDS RTECS (2006-2009) 国立医薬品食品衛生研究所 国際化学物質安全性カード bioMerieux sa 製品 SDS (2016-03-05) 記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。
------	---

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	VITEK MS 抗酸菌/カルジ7用前処理キット	— R2 試薬
製品番号	415659	
製造元		
会社名	bioMérieux sa	
住所	Chemin de l'Orme - 69280 Marcy-l'Etoile – France	
電話番号	+33(0)478877656	
FAX 番号	+(1) 919 470 6819	
Email	gcs_idast@biomerieux.com	
会社名 (販売元)	バイオメリュー・ジャパン株式会社	
住所	〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-7 赤坂溜池タワー2F	
担当部門	薬事部	
電話番号	03-6834-2666	
緊急時の電話番号	03-6834-2718	
FAX 番号	03-6834-2667	
Website	http://www.biomerieux.co.jp/	
推奨用途及び使用上の制限	試薬	

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性 皮膚腐食性/刺激性 区分 1B

GHS ラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H314 : 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

注意書き

安全対策

P280 : 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

応急措置

P301+P330+P331 : 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

P303+P361+P353 : 皮膚 (又は髪) に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

P305+P351+P338 : 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法	安衛法	
ギ酸	80 - < 90 (%)	CH ₂ O ₂	(2)-670		64-18-6

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 (施行令第 18 条、別表第 9 の 132) (80 - < 90 %)

ギ酸

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

呼吸困難時には、必要に応じて酸素吸入をさせること。

被害者がこの物質を飲み込んだ場合、(人工呼吸法等の)口移し方法は行わないこと。

症状が増悪もしくは持続する場合、医師に連絡をすること。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。

化学熱傷等は医師の手当てを受けること。

直ちに医師または中毒センターへ連絡をすること。

接触を最小限にする為、接触していない部分に拡大しないようにすること。

眼に入った場合

直ちに多量の水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

飲み込んだ場合：直ちに中毒センターもしくは医師に連絡をすること。

口をすすぐこと。

無意識(意識不明)の場合又は痙攣を起こしている場合には、被害者の口からは何も入れないこと。

中毒情報センターから指示なしに吐かせないこと。

嘔吐した場合、胃の内容物が肺に入らないように頭部を低くすること。

最も重要な症状及び影響(急性/遅延性) 速やかな医師の手当て指示及び特別措置

腐食作用

症状に合わせて一般的な医療措置を提供すること。

息切れがある場合は、酸素吸入をすること。

被害者体温を温かく保つこと。

症状により遅れて発症する可能性がある。

一般的な情報

直ちに汚染した衣類を脱ぐこと。

汚染された衣類を再使用する際はよく洗濯すること。

5. 火災時の措置

消火剤

霧水、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素(CO₂)。

使ってはならない消火剤

勢いのある水噴霧、棒状注水は被害を増大する。

特有の危険有害性

蒸気は空気と爆発性混合物を形成するおそれがある。

発火源へ到達した蒸気はフラッシュバックのおそれがある。

火災時には、健康を害する有害なガスを発生するおそれがある。

消火を行う者の保護及び注意事項

消火作業の際は、自給式呼吸器及び化学用完全保護服を着用すること。

消火方法及び指示

火災及び/又は爆発の場合、煙を吸入しないこと。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

具体的な消火方法

標準の消火方法を用いる。

その他含有される原料の有害性も考慮すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

不要な作業員を遠ざけること。関係者以外は近づけない。
直ちにエリア内すべての着火源を排除すること。－禁煙、フレア、火花、火炎。
後片付けの最中は、適切な保護具及び保護服を着用すること。
ミストや蒸気の吸入を避けること。
十分に換気すること。
多量の流出が考えられる場合、地方自治体に連絡し指示を仰ぐこと。
適切な個人用保護具については、8.「ばく露防止措置及び保護措置」の項を参照してください。

封じ込め及び浄化の方法・機材

直ちにエリア内のすべての着火源を排除すること。－禁煙、フレア、火花、火炎。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
木、紙、油等の可燃性物質を吸着し回収すること。
流出物は再利用目的で元の容器に戻さないこと。
大流出の場合：
危険でなければ、原料の流出（漏れ）を止めること。
製品はバーミキュライト、乾燥砂又は土などに吸収させ、容器に回収すること。
製品回収した後、汚染域は水で洗い流すこと。
少量流出の場合：
吸収性素材（例：布、フリース）で拭き取ること。
汚染物質が残らないよう作業場所を清浄すること。
廃棄物処理に関しては、「13. 廃棄上の注意」を参照すること。
排水溝、水路又は地表面への放出（排出）を避けること。

環境に対する注意事項

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱い注意事項

使用前に使用説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
火気、熱源、発火源付近で開封作業や保管、取扱いをしないこと。
直射日光に当たらないこと。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
蒸気等を吸入しないこと。
長時間の露光は避けること。
衣服に化学物質を付着させないこと。
屋外もしくは換気可能な場所で取扱うこと。
適切な個人用保護具を着用すること。
工場（労働）衛生に影響が及ばないように注意すること。
使用する際、飲食や喫煙はしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

熱、火花、裸火から遠ざけて保管すること。
しっかりと密閉容器に保管すること。
直射日光を避け、涼しい場所に保管してください。
換気（風通し）のよい場所に保管すること。
冷蔵保管を推奨します。
スプリンクラーを設置したエリア内で保管してください。
混触危険性物質から遠ざけて保管すること（10.「安定性及び反応性」を参照）

8. ばく露防止及び保護措置

	CAS 番号	管理濃度	許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）	
			日本産業衛生学会 (2015)	A C G I H
ギ酸	64-18-6	未設定	5 ppm 9.4 mg/m ³	TWA 9.6 mg/m ³ 5 ppm

生物学的ばく露指標
設備対策

この成分に対する注意すべき生物学的ばく露指標はない。
 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
 部分的な換気装置を設置すること。
 一般的な換気装置を使用することがよい。換気速度（効率）は一定であること。
 標準モニタリングの手順に従うこと。
 個人用保護具等は使用者と相談し CEN 規格に従い選定すること。

保護具

眼/顔の保護具	保護面を着用すること。 サイドシールド（またはゴーグル）を安全眼鏡を着用すること。
手の保護具	保護手袋を着用すること。 ニトリル製の保護手袋を使用すること。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。 皮膚への接触を避けること。
呼吸器の保護具	制御装置が空気中濃度を制御していないような場合、呼吸器保護具を着用すること。
熱危険性	データなし

衛生対策

使用時は飲食禁止、禁煙。
衣類に付着させないこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状态	液体
	形状	データなし
	色	無色透明もしくはほとんど無色
臭い		データなし
臭いのしきい（閾）値		データなし
pH		データなし
融点・凝固点		-13°C（推定）
沸点、初留点及び沸騰範囲		107°C（推定）
引火点		65.0°C（推定）
蒸発率		データなし
燃焼性（個体、ガス）		データなし
燃焼又は爆発範囲	引火限界	
	下限	データなし
	上限	データなし
n-オクタノール/水分配係数		データなし
自然発火温度		データなし
熱分解温度		データなし
粘度		データなし
爆発性		データなし
酸化特性		データなし
密度		1.20 g/cm ³ （推定）
揮発性%		85 %（推定）
揮発性有機化合物 VOC（weight %）		85 %（推定）

10. 安定性及び反応性

反応性	この製品は通常の使用、保管、輸送条件下では安定でかつ非反応性である。
化学的安定性	通常の取り扱い温度、圧力等の条件下では安定である。
危険有害反応の可能性	危険な重合反応は起こさない。
避けるべき条件	熱、炎、火花。 引火点を超える温度を避けること。 混触危険物質との接触
混触危険物質	強酸化剤。
危険有害な分解生成物	危険な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

化合物	種別	試験結果
ギ酸 (CAS:64-18-6)		
急性 (吸入) LC50	マウス	6.2 mg/L, 15 minutes
	ラット	15 mg/L, 15 minutes
		7.4 mg/L, 4 hours
(経口) LD50	イヌ	4000 mg/kg
	マウス	700 mg/kg
	ラット	730 mg/kg

* 製品としての概算 (推測) は、追加成分データに基づく場合がある (図示化していない)。	
皮膚腐食性/刺激性	皮膚の薬傷や眼の損傷を引き起こす可能性がある。
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	眼の薬傷を起こす可能性がある。
呼吸器感作性	データ不足の為、分類できない。
皮膚感作性	データ不足の為、分類できない。
生殖細胞変異原性	データ不足の為、分類できない。
発がん性	データ不足の為、分類できない。
生殖毒性	データ不足の為、分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	データ不足の為、分類できない。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	データ不足の為、分類できない。
吸引力呼吸器有害性	データ不足の為、分類できない。
その他情報	利用可能な情報なし

12. 環境影響情報

化合物	種別	試験結果
ギ酸 (CAS:64-18-6)		
水生		
甲殻類 EC50	オオミジンコ	138 - 165.6 mg/L, 48 hours

* 製品としての概算 (推測) は、追加成分データに基づく場合がある (図示化していない)。	
残留性及び分解性	この製品の分解性として提供できるデータはない。
生物蓄積性	
n-オクタノール/水分配係数 (log Kow)	
ギ酸	-0.54
生物濃縮係数 (BCF)	データなし
生物濃縮可能性	データなし
土壤中の移動度	データなし
他の有害影響	この成分からの環境に対するその他の有害影響はなしと推測。 (例: オゾン層破壊の可能性、光化学的オゾン発生の可能性、内分泌かく乱の可能性または地球温暖化の可能性)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄処理規制

関連法規並びに地方自治体の規制基準に従い廃棄すること。
空容器にも製品の残留物が残っている為、容器が空になっても警告等の表示に従い、安全な方法で廃棄すること。

密閉できる容器に収集し、許可を受けた廃棄物処理業者に引き渡すこと。

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して廃棄処理する。

この製品やその容器は危険廃棄物として廃棄すること。

下水及び河川等にこの製品を排出しないこと。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

空容器にも製品の残留物が残っている為、容器が空になっても警告等の表示に従うこと。

残留物/未使用製品の廃棄

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の規制基準に従うこと。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。(空容器の場合でも、製品がわずかに残留している可能性がある為、原材料及びその容器も安全に処分する必要がある)

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

I M Oの規定に従う。

UN No.

UN1779

Proper Shipping Name

FORMIC ACID with more than 85% acid by mass

Transport hazards class(es)

Class

8

Sub Risk

3

Packing Group

II

Environmental hazards

Marine Pollutant

No.

航空規制情報

I C A O / I A T Aの規定に従う。

UN No.

UN1779

Proper Shipping Name

Formic acid with more than 85% acid by weight

Transport hazards class(es)

Class

8

Sub Risk

3

Packing Group

II

Environmental hazards

No.

ERG Code

8F

国内規制

陸上規制情報

消防法の規定に従う。

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

国連番号 UN No.	1779
品名	ギ酸 (濃度が 85 質量%を超えるものに限る。)
分類	腐食性物質
クラス 等級	8
副次危険性等級	3
容器等級	II
海洋汚染物質	海洋汚染防止法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1779
品名	ギ酸 (濃度が 85 質量%を超えるもの)
分類、区分番号	8
クラス	2
副次危険性	3

特別の安全対策	輸送の前に容器の破損、腐食、モレ等がないことを確かめる。 危険物は当該危険物が転倒し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように載積すること。 移動の際に転倒、衝撃、摩擦、漏洩などを生じないようにする。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、モレ等を生じさせないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 運搬中の事故等により災害が発生した場合は、最寄りの消防機関その他の関係機関に通報すること。 輸送時にイエローカードを携帯すること。
緊急時応急措置指針番号	153

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9 の 132）（ギ酸）
毒物劇物取締法	非該当
消防法	ギ酸（90%以下を含有する物を除く） 危険物第 4 類引火性液体第 2 石油水溶性液体（法第 2 条第 7 項危険物別表第 1）
船舶安全法	腐食性物質（危規則第 3 条危険物告示別表第 1）
航空法	腐食性物質（施行規則第 194 条危険物告示別表第 1）
港則法	腐食性物質（施行規則第 12 条危険物告示）

16. その他の情報

参考文献	H314：重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 NITE GHS 分類公表データ EU CLP Regulation, Annex VI CHEMWATCH 社 GHS-(M)SDS RTECS (2006-2009) 国立医薬品食品衛生研究所 国際化学物質安全性カード bioMerieux sa 製品 SDS (2016-03-05) 記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。
------	---

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	VITEK MS 抗酸菌/ノカルジア用前処理キット	— R3 試薬
製品番号	415659	
製造元		
会社名	bioMérieux sa	
住所	Chemin de l'Orme - 69280 Marcy-l'Etoile – France	
電話番号	+33(0)478877656	
FAX 番号	+(1) 919 470 6819	
Email	gcs_idast@biomerieux.com	
会社名 (販売元)	バイオメリュー・ジャパン株式会社	
住所	〒107-0052 東京都港区赤坂 2-17-7 赤坂溜池タワー2F	
担当部門	薬事部	
電話番号	03-6834-2666	
緊急時の電話番号	03-6834-2718	
FAX 番号	03-6834-2667	
Website	http://www.biomerieux.co.jp/	
推奨用途及び使用上の制限	試薬	

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的・化学的危険性	引火性液体 区分 2
健康に対する有害性	急性毒性（経口） 区分 4 急性毒性（経皮） 区分 4 急性毒性（吸入） 区分 4 眼に対する重篤な損傷/眼刺激 区分 2
有害性の要約	熱、火花、炎により引火する可能性がある。 吸入すると有害。 飲み込むと有害。 皮膚に接触すると有害。 重篤な眼刺激を引き起こす。

GHS ラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険
H225：引火性の高い液体及び蒸気
H302：飲み込むと有害
H312：皮膚に接触すると有害
H319：強い眼刺激
H332：吸入すると有害

注意書き

安全対策

P210：熱、火花、裸火、高温の物のような着火源から遠ざけること。－ 禁煙。
P280：保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

応急措置 P302+P352：皮膚についた場合：多量の水で洗うこと。
 P305+P351+P338：眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。
 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法	安衛法	
アセトニトリル	90 - 100 (%)	CH ₃ CN	(2)-1508		75-05-8

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

労働安全衛生法 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（施行令第18条、別表第9の15）（90 - 100 %） アセトニトリル
 毒物及び劇物取締法 劇物（政令第2条第1項第32号）有機シアン化合物及びこれを含有する製剤。ただし、次に掲げるものを除く。(1)～(177) アセトニトリル

4. 応急措置

吸入した場合 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 呼吸困難時には、必要に応じて酸素吸入をさせること。
 被害者がこの物質を吸入した場合、（人工呼吸法等の）口移し方法は行わないこと。

皮膚に付着した場合 症状が増悪もしくは持続する場合、医師に連絡をすること。
 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。
 石鹼や水で洗い流すこと。
 接触を最小限にする為、接触していない部分に拡大しないようにすること。

眼に入った場合 症状が続く場合、医師の診断を受けること。
 直ちに多量の水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
 飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けること（本製品の容器もしくはラベルを見せること）。
 口をすすぐこと。
 無意識（意識不明）の場合又は痙攣を起こしている場合には、被害者の口からは何も入れないこと。
 中毒情報センターから指示なしに吐かせないこと。
 嘔吐した場合、胃の内容物が肺に入らないように頭部を低くすること。
 被害者がこの物質を飲み込んだ場合、（人工呼吸法等の）口移し方法は行わないこと。

最も重要な症状及び影響（急性/遅延性） 痙攣。吐気や嘔吐。重度の眼刺激。涙目、発赤、腫れ、視力障害を含む症状。鼻や咽喉の炎症。

速やかな医師の手当て指示及び特別措置 症状により遅れて発症する可能性がある。

一般情報

直ちに汚染したすべての衣類を脱ぐこと。
 気分がすぐれない場合は、医師の手当てを受けること（可能であれば本製品のラベル表示を見せること）。
 担当医に本製品の SDS を見せること。

5. 火災時の措置

消火剤

使ってはならない消火剤

特有の危険有害性

耐アルコール性泡消火剤、霧水、粉末消火剤、二酸化炭素 (CO₂)。勢いのある水噴霧、棒状注水は被害を増大する。
 蒸気は空気と爆発性混合物を形成するおそれがある。
 火災時には、健康を害する有害なガスを発生するおそれがある。
 消火作業の際は、自給式呼吸器及び化学用完全保護服を着用すること。

消火を行う者の保護及び注意事項

消火方法及び指示
 具体的な消火方法

火災及び/又は爆発の場合、煙を吸入しないこと。
 標準の消火方法を用いる。
 その他含有される原料の有害性も考慮すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

不要な作業員を遠ざけること。関係者以外は近づけない。
 直ちにエリア内すべての着火源を排除すること。－禁煙、フレア、火花、火炎。
 後片付けの最中は、適切な保護具及び保護服を着用すること。
 蒸気やミストの吸入は避けること。
 立ち入る前に十分に換気すること。
 多量の流出が考えられる場合、地方自治体に連絡し指示を仰ぐこと。
 適切な個人用保護具については、8. 「ばく露防止措置及び保護措置」の項を参照してください。

封じ込め及び浄化の方法・機材

直ちにエリア内すべての着火源を排除すること。－禁煙、フレア、火花、火炎。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 製品はパーミキュライト、乾燥砂又は土などに吸収させ、容器に回収すること。
 本製品は水に混和します。
 流出物は再利用目的で元の容器に戻さないこと。
 大量流出の場合：
 危険性がない場合、製品の流出を止めること。
 製品はパーミキュライト、砂又は土などの不燃性物質に吸収させ廃棄可能な容器に回収すること。後で廃棄処理する。
 排水溝、水路、地表面への放出(排出)を避けること。
 製品回収した後、汚染域は水で洗い流すこと。
 少量流出の場合：
 土、砂又は他の不燃性物質に吸着させ、廃棄可能な容器に集めること。後で廃棄処理する。
 汚染物質が残らないよう作業場所を清浄すること。
 廃棄物処理に関しては、「13. 廃棄上の注意」を参照すること。
 排水溝、水路又は地表面への放出(排出)を避けること。

環境に対する注意事項

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	安全取扱い注意事項	使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 火気、熱源、発火源付近で開封作業や保管、取扱いをしないこと。 直射日光に当てないこと。 防爆設備や排気設備の整った環境で使用する事。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 蒸気等を吸入しないこと。 眼、皮膚、衣服との接触を避けること。 長時間の露光は避けること。 使用時には飲食及び喫煙はしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 工場（労働）衛生に影響が及ばないように注意すること。 汚染された衣類を再使用する際にはよく洗濯すること。
保管	安全な保管条件	しっかりと密閉容器に保管すること。 換気（風通し）のよい場所に保管すること。 冷蔵保管を推奨します。 スプリンクラーを設置したエリア内で保管してください。 混触危険性物質から遠ざけて保管すること（10.「安定性及び反応性」を参照）

8. ばく露防止及び保護措置

	CAS 番号	管理濃度	許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）	
			日本産業衛生学会	ACGIH
アセトニトリル	75-05-8	未設定	未設定	STEL 102 mg/m3 60 ppm TWA 68 mg/m3 40 ppm

生物学的ばく露指標
設備対策

この成分に対する注意すべき生物学的ばく露指標はない。
 一般的な換気装置（通常時間当たりの換気回数=10）を使用することがよい。換気速度（効率）は一定であること。
 該当する場合、作業場所の密閉や廃棄換気装置等を使用し、空気中の値を推奨する作業ばく露限界以下に保つこと。
 標準モニタリングの手順に従うこと。
 洗眼器（設備）を設置すること。
 作業ばく露限界値が設定されていない場合、空気中の値を許容可能濃度に保つこと。
 局所排気装置を用い、推奨するばく露限界値以下に保つこと。

保護具

眼/顔の保護具	眼への接触を避けること。 サイドシールド（又はゴーグル）や安全眼鏡を着用すること。 噴水式眼洗浄を推奨する。
手の保護具	ニトリル製の保護手袋を使用すること。
皮膚及び身体への保護具	データなし
呼吸器の保護具	必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。 制御装置が空気中の濃度を制御していないような場合、呼吸器保護具を着用すること。
熱危険性	データなし
衛生対策	使用中は禁煙。飲食禁止

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状态	液体
	形状	データなし
	色	無色透明もしくはほとんど無色
臭い		データなし
臭いのしきい (閾) 値		データなし
pH		データなし
融点・凝固点		-45°C (推定)
沸点、初留点及び沸騰範囲		81.6°C (推定)
引火点		12.8°C (閉鎖系)
		5.6°C (解放系)
		5.6°C (推定)
蒸発率		データなし
燃焼性 (個体、ガス)		データなし
燃焼又は爆発範囲	引火限界	
	下限	3% (推定)
	上限	16% (推定)
蒸気圧		11.84 kPa (25°C)
蒸気密度		1.42
相対密度		データなし
溶解度		
水		混和する
その他		データなし
n-オクタノール/水分配係数		-0.34
自然発火温度		524°C (推定)
熱分解温度		データなし
粘度		データなし
爆発性		データなし
酸化特性		データなし
密度		0.79 g/cm ³ (推定)
動的粘度		0.35 mPa.s (推定) (20°C)
動粘性率		0.4446 mm ² /s (推定)
分子量		41.05 g/mol (C ₂ H ₃ N)
比重		0.79 (推定) (15°C)
揮発性%		100 % (推定)
揮発性有機化合物		100 % (推定)
VOC (weight %)		

10. 安定性及び反応性

反応性	この製品は通常の使用、保管、輸送条件下では安定でかつ非反応性である。
化学的安定性	通常取り扱い温度、圧力等の条件下では安定である。
危険有害反応の可能性	危険な重合反応は起こさない。
避けるべき条件	熱、火花、裸火、他の着火源を避けること。 引火点を超える温度を避けること。
混触危険物質	混触危険物質との接触
危険有害な分解生成物	強酸化剤。 危険な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

化合物	種別	試験結果
アセトニトリル (CAS:75-05-8)		
急性 (経皮) LD50 (吸入) LC50	ウサギ	390 mg/kg
	モルモット	5655 ppm, 4 hours
	マウス	2693 ppm, 1 hours
	ウサギ	2825 ppm, 4 hours
	ラット	7500 ppm, 8 hours
(経口) LD50	モルモットマウス	330 ppm, 90 days
	ス	140 mg/kg
	ラット	269 mg/kg
		175 mg/kg

* 製品としての概算 (推測) は、追加成分データに基づく場合がある (図示化していない)。

皮膚腐食性/刺激性	データ不足の為、分類できない。
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	重篤な眼刺激。
呼吸器感作性	データ不足の為、分類できない。
皮膚感作性	データ不足の為、分類できない。
生殖細胞変異原性	データ不足の為、分類できない。
発がん性	データ不足の為、分類できない。
生殖毒性	データ不足の為、分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	データ不足の為、分類できない。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	データ不足の為、分類できない。
吸引性呼吸器有害性	データ不足の為、分類できない。
その他情報	利用可能な情報なし

12. 環境影響情報

化合物	種別	試験結果
アセトニトリル (CAS:75-05-8)		
水生		
甲殻類 EC50	ファットヘッド ミノウ	> 100 mg/L, 96 hours

* 製品としての概算 (推測) は、追加成分データに基づく場合がある (図示化していない)。

残留性及び分解性	この製品の分解性として提供できるデータはない。
生物蓄積性	
n-オクタノール/水分配係数 (log Kow)	
アセトニトリル	-0.34
生物濃縮係数 (BCF)	データなし
生物濃縮可能性	データなし
土壤中の移動度	データなし
他の有害影響	この成分からの環境に対するその他の有害影響はなしと推測。 (例: オゾン層破壊の可能性、光化学的オゾン発生の可能性、内分泌かく乱の可能性または地球温暖化の可能性)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物
廃棄処理規制

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の規制基準に従い廃棄すること。

密閉できる容器に収集し、許可を受けた廃棄物処理業者に引き渡すこと。

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して廃棄処理する。

この製品やその容器は危険廃棄物として廃棄すること。

下水及び河川等にこの製品を排出しないこと。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

空容器にも製品の残留物が残っている為、容器が空になっても警告等の表示に従うこと。

残留物/未使用製品の廃棄

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。(空容器の場合でも、製品がわずかに残留している可能性がある為、原材料及びその容器も安全に処分する必要がある)

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

I M Oの規定に従う。

UN No.

UN1648

Proper Shipping Name

ACETONITRILE

Transport hazards class(es)

Class

3

Sub Risk

-

Packing Group

II

Environmental hazards

Marine Pollutant

No.

航空規制情報

I C A O / I A T Aの規定に従う。

UN No.

UN1648

Proper Shipping Name

Acetonitrile

Transport hazards class(es)

Class

3

Sub Risk

-

Packing Group

II

Environmental hazards

No.

ERG Code

3L

国内規制

陸上規制情報

消防法の規定に従う。

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

国連番号 | UN No.

1648

品名

アセトニトリル

分類

引火性液体類

クラス 等級	3
副次危険性等級	-
容器等級	II
海洋汚染物質	海洋汚染防止法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1648
品名	アセトニトリル
分類、区分番号	3
副次危険性	-
特別の安全対策	輸送の前に容器の破損、腐食、モレ等がないことを確かめる。 危険物は当該危険物が転倒し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように載積すること。 移動の際に転倒、衝撃、摩擦、漏洩などを生じないようにする。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、モレ等を生じさせないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 運搬中の事故等により災害が発生した場合は、最寄りの消防機関その他の関係機関に通報すること。 輸送時にイエローカードを携帯すること。
緊急時応急措置指針番号	131

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9 の 15）（アセトニトリル） 危険物（引火性の物）（施行令別表第 1 第 4 号）
PRTR 法 （化学物質排出把握管理促進法） 毒物劇物取締法	第 1 種指定化学物質（法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1）（政令番号第 13 号） 政令・劇物 有機シアン化合物及びこれを含有する製剤。ただし、次に掲げるものを除く。(1)～(177)
消防法	危険物第 4 類引火性液体第 1 石油水溶性液体（法第 2 条第 7 項危険物別表第 1）
大気汚染防止法	有害大気汚染物質（中環審第 9 次答申の 9）（アセトニトリル）
海洋汚染防止法	有害液体物質（施行令別表第 1、Z 類）
船舶安全法	引火性液体類（危規則第 3 条危険物告示別表第 1）
航空法	引火性液体類（施行規則第 194 条危険物告示別表第 1）
港則法	引火性液体類（施行規則第 12 条危険物告示）

16. その他の情報

参考文献	H225：高い引火性液体及び蒸気 H302：飲み込むと有害 H312：皮膚に接触すると有害 H319：強い眼刺激 H332：吸入すると有害 NITE GHS 分類公表データ EU CLP Regulation, Annex VI CHEMWATCH 社 GHS-(M)SDS RTECS (2006-2009) 国立医薬品食品衛生研究所 国際化学物質安全性カード bioMerieux sa 製品 SDS（2016-03-05）
------	--

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。